

# 太

二年 画数 4  
筆順 大 太  
オン タイ・タ  
フン ふと 日 い 日 日 日

成り立ち



「大きい」といういみをあらわした「大」という字の下に、「おなじ字をかさねる『しるし』」の「」をつけただもので、「大大」といういみの字です。

「とても大きい」といういみをあらわした字です。

また、「とても」とか、「いちばん」といういみにもつかわれます。例 太古、太平、太初。

いまでは、「ふ」とい、「ふとる」といういみにつかわれるようになりました。

使い方

▽太古のじだいは太平であったかもしれませんが、せい  
かつはくるしかつたとおもいます。  
▽太平洋にのぼる赤い太陽はじつにみごとでした。

熟語例

- ▽太陽 (お日さまのこと。)
- ▽太陰 (お月さまのこと。)
- ▽太古 (大むかし。ひじょうに古い、といういみ)
- ▽太平 (ひじょうに平和なこと。)
- ▽太初 (いちばんの初め。天地の初め、といういみにつかいます。)

▽太郎 (郎は男のいみ。いちばん初めの男の子のよび名。長男のよび名)

▽太子 (長男の王子。つぎの王さまとなる王子)

▽皇太子 (天皇のいちばん初めの男のお子さま。つぎの天皇になられるかた)

▽せかい一ひろい海は「太平洋」で、二ばんめは「大西洋」です。「太平洋」には「太」の字がつかわれ、「大西洋」には「大」の字がつかわれています。

使い方

- ▽ぼくは、体をきたえるために、けんどうをしています。
- ▽さすがはすもうとりで、体格がいい。
- ▽おかあさんは、ぼくのしせいがいまえよりよくなったし、体格もがっちりしてきた、といっています。
- ▽ぼくは体育のじかんがすきです。
- ▽ぼくのうちに、赤ちゃんが生れました。おばあちゃんは、「五体まんぞくで、まずはよかったです」と、いいました。おばあちゃんに、「五体まんぞくってなに？」ときいたら、「体に、どこもおかしなところがないってことだよ」と、おしえてくれました。
- ▽いちど、体得すれば、二どとわされることはありません。

熟語例

- ▽体格 (体つき。体の格好)
- ▽体育 (体を育て、せいちようさせるための教育)
- ▽体得 (体で会得すること。また、かんげんに会得して、じぶんのものとすること。)
- ▽体裁 (そとから見たようす。とくに、たんにたいするみえをいいます。「体裁がわるい」など)

# 体

二年 画数 7  
筆順 イ 竹 休 体  
オン タイ・テイ  
フン からだ

成り立ち



「木のねもと」といういみで、木のいちばん「たいせつなぶぶん」をあらわした「本」と、人のかたちをあらわした「イ」とをくみあわせてつくった字です。

「人のいちばんたいせつな「からだ」」をあらわした字です。「体につける」といういみにもつかいます。

また、「かたち」「ようす」といういみにもつかわれます。

「タイは漢音で、おおくこの音で読まれる。テイは呉音で、「体裁」とか「人体」とか、古い読みならわしのものにかぎられて使われている。」